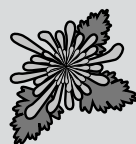


# 9月の農作業

平成21年9月10日  
J A テラルル 越前  
奥越農林総合事務所

## 今月のポイント

- ★適期刈り取りと乾燥調整
- ★土づくりでグレードアップ
- ★大麦の圃場準備、適期播種
- ★大豆・ソバの害虫防除
- ★菊の秋植え圃場準備



## 1. 今後の気象予想（新潟地方気象台）

—— 北陸地方 1か月予報 ——

〈8月30日から9月29日までの天候見通し〉

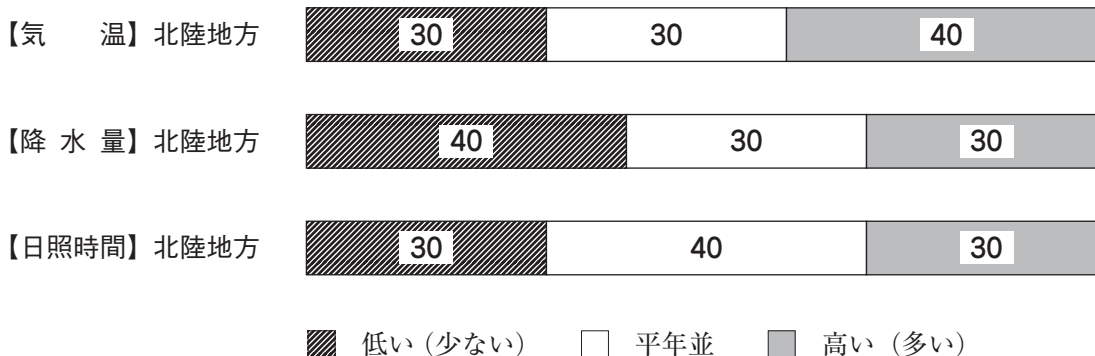
### 〈予想される向こう1か月の天候〉

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

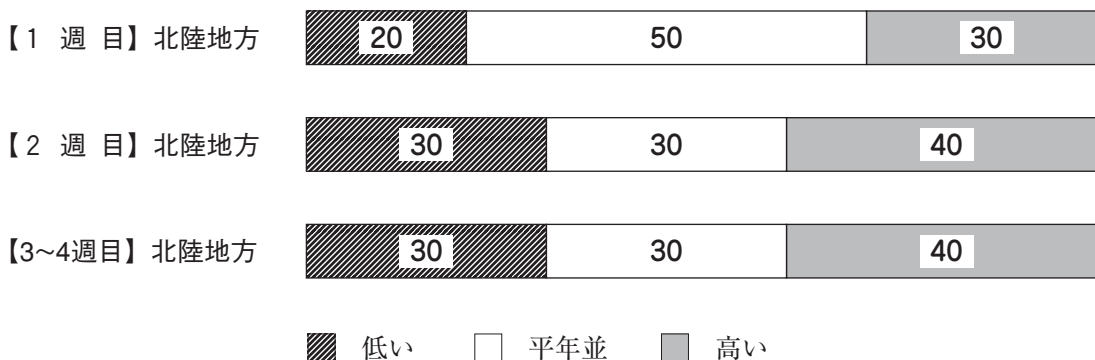
天気は数日の周期で変わるでしょう。

週別の気温は、1週目は平年並の確率50%です。

### 〈向こう1か月の気温・降水量・日照時間の各階級の確率（%）〉



### 〈気温経過の各階級の確率（%）〉





**<予報の対象期間>**

1	か	月	：	8月30日 (日)	～	9月29日 (火)
1	週	目	：	8月30日 (日)	～	9月5日 (土)
2	週	目	：	9月6日 (日)	～	9月12日 (土)
3～4	週	目	：	9月13日 (日)	～	9月26日 (土)



## 北陸地方3か月予報

〈9月から11月までの天候見通し〉

### 〈予想される向こう3か月の天候〉

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。  
この期間の平均気温は平年並または高い確率ともに40%です。

**【9月】**  
天気は数日の周期で変わってでしょう。降水量は平年並または少ない確率ともに40%です。

**【10月】**  
天気は数日の周期で変わってでしょう。気温は高い確率50%です。

**【11月】**  
平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。



### 〈向こう3か月の気温、降水量の各階級の確率 (%)〉

**【気 温】**

【北陸地方】	3か月	20	40	40
	9 月	30	30	40
	10 月	20	30	50
	11 月	30	30	40

**【降 水 量】**

【北陸地方】	3か月	40	30	30
	9 月	40	40	20
	10 月	40	30	30
	11 月	40	30	30

低い (少ない)   
  平年並   
  高い (多い)

## 2、農作物対策

### 水 稲

#### 1、乾燥・調整

##### 乾燥調整の注意点

まず、乾燥水分を16.0～16.5%に設定し乾燥を開始し、設定水分まで仕上がったら、最後は手持ちの水分でこまめに測定・確認し、15%に仕上げ乾燥をしてください。

●乾燥後の水分過多に注意。

↓仕上げは15.0%

(収穫した籾に青籾混入が多い場合は、乾燥後水分の戻りが発生しやすい)

過乾燥は、胴割れ米の原因となり、また食味を落とす原因と

なりますので、玄米水分を15.0%に仕上げてください。

●乾燥後、穀温が高いときは肌ずれ米や胴割れ米の発生がしやすいので、充分に穀温を下げてから籾摺りを行ってください。

●籾混入率が高くならないようご注意ください。また、籾高や胴割れ米の発生原因として、籾摺り機のローラーの消耗によるものが多いため、使用前に必ず点検をしてください。

#### 2、土づくりで

##### 地力を高める

おいしい、売れる米作りの基本は、土づくりからです。稲刈り後は、早期に土づくり資材を施用して、耕起してください。

## 水稻栽培日誌の記帳・提出について

出荷対象者で栽培日誌の未提出者は、早急に各支店まで提出してください。

### 大 麦

#### 1、圃場準備

麦は湿害に弱いため、圃場は稲刈り後早急に溝を切って排水に努め、軟らかい圃場は無理に耕起しないで、圃場が乾いてから行ってください。

#### 2、種子消毒

ベンレートT水和剤20  
☆200倍 24時間浸漬(液温10℃確保)または  
☆種子重量の0.5%粉衣

#### 3、適期播種

品質向上・硝子質粒防止対策として10月10日～20日頃に播種をしてください。

# 大豆

〔山間地は10月5日～15日頃〕  
特に、耕起と播種は圃場が乾いた時に、同日に行ってください。

## ☆播種量

散播、条播 ともに

6～7 kg / 10 a

## 4、施肥基準

### 〈分施肥系〉

元肥 複合高度 44

条播 20～25 kg / 10 a

元肥 複合高度 44

散播 30 kg / 10 a

### 〈一発肥料体系〉

スーパーSRコート麦一発

35 kg / 10 a



## 1、害虫防除

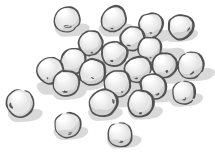
9月中旬頃までシロイチモジマ  
ダラメイガやハスモンヨトウによる被害が予想されますので、再度防除を行ってください。

## 2、適期刈り取り

刈り取り時期は完全に落葉し、ほとんどの莢がカラカラと音がする時期で、なるべく午前中に収穫してください。

コンバインによる収穫は、汚損粒・着色粒を防ぐため、手刈りより少し遅れて、茎がポキポキ折れるようになってから行ってください。また、青立ちしている茎は収穫前に取り除いてお

いてください。



# そば

## 1、害虫防除

### ☆ヨトウムシ類

ヨトウムシの早期発見、適期防除に努めてください。

### ※ロムダンフロアブル

2000倍 150～300 ℓ / 10 a

収穫21日前まで

使用回数2回以内

### ※ロムダン粉剤DL

4 kg / 10 a

収穫21日前まで

使用回数2回以内

収穫前日まで

使用回数本剤4回以内

## 耕起・刈り取り作業時の注意事項

★トラクター、コンバイン作業時で道路を移動するときは、タイヤ・キャタピラに付いた泥で道路が汚れないようにご注意ください。

泥が多く付いているときは一度、車輪を洗浄してから移動するようにしてください。

★機械作業は最も災害の危険性が高い作業です。

事前の機械整備と共に十分な安全を確認して作業を行ってください。

### 里いも

子いも、孫いもの肥大期に入っています。良質の里いも生産のために、次の管理を行ってください。

#### 1、手直し

根元の浅くなっているところは、必ず土寄せを行ってください。

#### 2、子ズイキ刈り

発生が見られたら、早めに刈り取ってください。



#### 3、害虫防除

病虫害名	防除時期	薬剤名	使用濃度	10a当り 使用量	使用時期 (収穫前日数)	使用回数
ハダニ	生育中	ニッソランV乳剤	1,500倍		7日	2
ハスモンヨトウ	生育中	エルサン粉剤2	—	3 kg	7日	1
		ハクサップ水	2,000倍	100~200 ℓ	3日	5
		トレボン乳剤	1,000倍	100~200 ℓ	14日	3

☆晴天が続き土が乾くときは、3日~4日に一度は灌水を行いましょう。

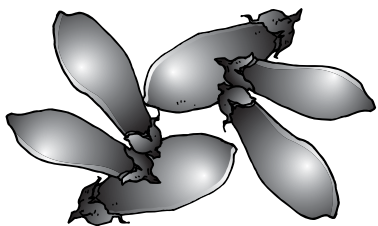
# ナス

## 整枝・剪定

9月下旬以降は原則として放任しますが、果実の収穫の見込みのない側枝は間引き剪定をしてください。

## 敷きワラ

低温が続くと生育および果実の肥大が抑制されます。地温の上昇を図るために枝、古葉を取り除き、地表面の日当たりを良くしてください。また、敷きワラは地温の上昇を妨げるので除去してください。



## 追肥

花数、果実数が少なくなり吸肥量も減少するため、10〜15日間隔で追肥してください。

## 花卉

## キク

9月は次年度作付けに向けた圃場作りが重要となります。稲刈り後、土が乾いたら、耕起と畝作り作業を一気に済ませます。特に耕起後に雨が降った後は、畝立てが困難となりますので注意してください。圃場作りから定植までの日程を計画して、できるだけ早めの作業をしましょう。定植の遅れは春の芽立ちに直接影響があります。

## 暮れ植えの管理

### ○圃場準備

キクは排水の良い土を好み、耕土の深いところを選定してください。

畝天幅100 cm 通路30 cm

秋の天気は変わりやすいので、畝作りをする時は、排水溝を耕盤以下にして、降った雨を一気に排水できるようにしてください。

キク作りは排水によって決まる。畝はできるだけ**高畝**にしておくこと。

### ○施肥と均平整地

(定植前10日以上)

30 m畝で、有機ペレ5〜7 kgの施肥をしてください。

肥料は、畝の中央に浅く溝をかいて施します。

施肥後は、畝面を均平に整地してください。畝面に高低があるとキクの生育にムラができ、低い所は芽立ちが悪くなります。



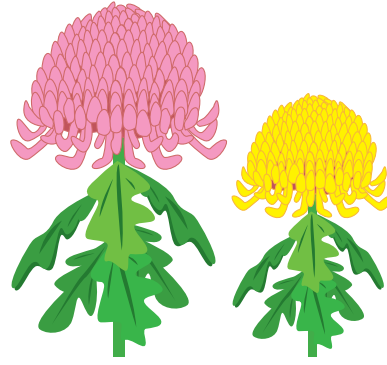
### ○除草剤

(定植前1〜2日)

畝作りを終えたら、降雨後土が湿っている間に散布します。土が乾いていると除草効果が落ちます(浸透しない、広がらない)。畝に雑草の芽が出るのを待って散布すると効果が高くなります。散布後、半日〜1日あれば定植できます。

## ○定植

定植目標を10月1日として作業を進めてください。早めの定植は、春の芽立ちの安定につながります。定植が遅れると、冬の寒さに耐えられず、春の芽立ちの悪化につながります。



暮れ植えの苗は、大株の方が良く、若苗で遅植えの場合は、春の芽立ちが非常に悪くなります。

定植は苗作りとも関連しているので、10月10日までに、定植を完了してください。

## 9月咲きの管理

○管内全域でダニが発生しています。3日ごとにダニ剤の散布を3〜4回程度集中して行ってください。

## 10月咲きの管理

○病害虫防除の徹底に努めてください。

## 病害虫防除

管内では、すでにダニの発生が見受けられます。発生状況にに応じた防除を行いましょよう。



### ○ダニ(ローテーション散布)

成虫、幼虫に効果のある農薬  
卵にも効果のある農薬(2回)

\*3日おきに散布

#### 主な使用農薬

(卵・幼虫)

オサダンフロアブル・テデオ  
ン乳剤・ピラニカEW・  
ダニカット乳剤

(幼虫・成虫)

カネマイトフロアブル(出  
蕾時に散布すると薬害の恐  
れあり)・マイトコーネフ  
ロアブル・粘着くん

### ○スリップス(アザミウマ類)

蕾の中にスリップスなどが  
入りますと防除が困難になり  
品質が低下しますので、開花  
の早い品種から防除を徹底し  
てください。

#### 主な使用農薬

ジェイエース水溶剤・ハチ  
ハチ乳剤・コテツフロアブ  
ル・テルスターフロアブル

### ○オオタバコガ

オオタバコガは花芽を食害  
し、被害を及ぼします。

#### 主な使用農薬

ラービンフロアブル・ガー  
ドジェット水和剤・ロムダ  
ンフロアブル・アフアーム  
乳剤・スピノエース顆粒水  
和剤・プレオフロアブル

## スプレーギク

9月の作業は、草丈が30cmくらいで電照を打ち切ります。打ち切り時には、ダニの予防剤としてニックスラン水和剤を散布してください。

### 病虫害防除

#### ○白さび病

予防のために、ジマンダイセンフロアブルおよびダコニール1,000の混合剤を1週間に2回程度散布する。発病したら、ダイセンステンレスを散布する。

